

入門

イチから学ぶ 依存症支援

横浜市内で依存症及び関連課題に携わる支援者向けガイドライン



横浜市健康福祉局こころの健康相談センター
(横浜市依存症関連機関連携会議)

はじめに

依存症は、適切な治療や支援につながることで回復が可能です。しかし、本人には依存症という自覚がない場合も多く、加えて本人だけでなく家族や周囲の方々も巻き込んで生活に様々な影響を及ぼしたり、周囲の偏見などにより回復が妨げられたりするなど、適切な医療や支援につながる段階で多くの障壁があります。また、背景として様々な生きづらさ（成育歴上の課題、病気や障害、DV、家族関係、借金等）を抱えている場合も多く、依存症の回復支援に加え、日常生活上の様々な課題等への包括的な支援が必要となることも少なくありません。そのため、依存症の本人が適切な医療や支援につながり回復するには、長い時間を要すると言われています。

【ガイドラインの作成目的】

依存症の本人や家族と接点を持つ機会のある身近な支援者から、依存症の治療・回復支援を専門とする機関や団体へ適切につなぐため、また、生活困窮や多重債務、DVなど依存症に関する様々な生活上の課題を抱えた人を専門機関等から必要な支援者につなぐために、大切にしたいこと等を関係者間で共有することを目的として、このガイドラインを作成しました。

【身近な支援者とは】

このガイドラインは、主に依存症の本人や家族と接点を持つ機会のある身近な支援者に向けて作成しています。身近な支援者とは、依存症支援とは異なる専門領域に従事している支援者です。身近な支援者は、依存症が疑われる人から相談を受けた際、早期に適切な医療や支援につなぐことが求められますが、依存症の本人や家族が適切な医療や支援につながる前の段階で課題への対応を求められるなど、様々な困難に直面することが予想されます。

【ガイドラインの活用イメージ】

このガイドラインでは、依存症の基礎知識をはじめ、依存症の本人や家族の特徴、動機づけのポイント、本人や家族への対応のポイント、緊急介入のポイントなどを整理して掲載しています。また、依存症の段階によって、本人や家族がどのような状態になるのかを整理した、「チェックリスト」を掲載しています。ガイドラインを通して、依存症の支援や回復のプロセス・つなぎ方のイメージを共有することで、切れ目なく必要な支援につながる横浜市の支援体制ネットワークを構築することができたらと考えています。

【他機関・団体につなぐときに大切にしたいこと】

このガイドラインの中心的なメッセージである「他機関・団体につなぐときに大切にしたいこと」は、以下のとおりです。

他機関・団体につなぐときに大切にしたいこと

1. 目の前の困りごとだけでなく、その背景に潜んでいる課題等にも目を向けること
2. 継続的に関わりタイミングを見極め、丁寧につなぐこと
3. つないだ後のフォローも大切に、連携して支援すること

このガイドラインが、依存症の本人や家族との信頼関係づくりや継続的な関係づくり、そして本人・家族を適切な支援や治療につなげることの一助になれば幸いです。

目次

第1章 依存症の基礎知識 1

- 1 依存症とは1
- 2 様々な依存症9
- 3 依存症の専門機関について14
- 4 依存症についてのよくある質問16

第2章 相談・支援のノウハウ 17

- 1 相談・支援の基本姿勢・心構え17
- 2 相談対応チャート21
- 3 本人への相談・支援のノウハウ27
- 4 家族への相談・支援のノウハウ36
- 5 緊急介入のポイント49

第3章 事例から学ぶ支援のポイント 53

- 1 ケーススタディ（架空事例）53
- 2 他機関・団体につなぐときに大切にしたいこと56

第4章 資料編 58

- 1 連携機関・団体一覧（以下の情報は、令和5年9月1日現在のものです。）58
- 2 スクリーニングテスト64
- 3 依存症チェックリスト65
- 4 家族や支援者の燃え尽きを防ぐためのセルフケア・チェックリスト68
- 5 参考になる文献等69